

自動車整備業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	2	7 ～ 8	国道を乗用車で走行中、凍結した路上をスリップし対向のトラックと衝突した。	231	17	1～ 9
1999	6	0 ～ 1	修理車にクレーンがついて工場にもっていくため県道を走行中、対向の大型トラックが中央線を越えてきて、正面衝突した。	221	17	10 ～ 29
1999	9	10 ～ 11	自動洗車機による洗車を終えコンベアーに乗せた1台目と2台目の車両後部の水滴等の拭き取り作業をしていたときに、同僚が3台目の車両をコンベアーに乗せようとして発進したときに、アクセルを強く踏み過ぎたため、前の車に衝突、玉突き状態となり車両の間に挟まれた。	231	6	50 ～ 99
1999	8	16 ～ 17	廃車置場において、廃車を小型移動式クレーン(車両積載型)の荷台にフォークローダー(最大荷重2.5t)で載せたときにトラックが地面の傾斜に沿って動き出したため、フォークローダを降り停止させようとしたが停止せず、約30メートル移動した地点でひかれた。	221	6	1～ 9
1999	2	14 ～ 15	事務用品購入のため交差点を自転車で横断中(青信号)、左折の大型貨物自動車にひかれた。	221	17	1～ 9
1999	7	14 ～	修理を終えた車を2人で納車したのち、乗用車で町道を走行中、交差点で右手から進行してきたトラック(10トン)に衝突した。	231	17	1～ 9

		15				
1999	7	14 ～ 15	修理を終えた車を2人で納車したのち、乗用車で町道を走行中、交差点で右手から進行してきたトラック(10トン)に衝突した。	231	17	1～ 9
2000	6	8 ～ 9	車検の代車を届けるため同僚が運転する軽乗用車に乗り市道を走行中、対向車線をはみ出してきた乗用車と衝突した。	231	17	10 ～ 29
2000	4	9 ～ 10	2t保冷車の修理の依頼を受け、客先で保冷車のエンジンをかけたままその下に潜りクラッチを修理していたところ、車が突然動き出して後輪につぶされた。	221	7	1～ 9
2000	10	11 ～ 12	フォークリフトの特定自主検査作業で、2. 5tフォークリフトの下面検査のためフォークリフトを1mほど上昇させたところ、フォークリフトが後部バランスウエート部から転落し、付近で別の検査中の者が激突された。	219	6	10 ～ 29
2000	7	15 ～ 16	コンクリートミキサー車のタンク内でアーク溶接作業を行い、作業を終えてタンクから出ようとしたときに持っていたアーク溶接機のホルダーが左手首に触れ感電した。	332	13	1～ 9
2000	1	18 ～ 19	車検のため入庫していたトレーラーの運転席に車検証を取りに行き、運転席より降りているときに転落した。	221	1	10 ～ 29
2000	12	11 ～ 12	廃車になった自動車からエンジン等の部品の取り外すため、小型移動式クレーン(吊り上げ荷重2. 93t)で吊り上げてその下部で作業を行っていたところ、吊り上げに使用していたベルトスリングが切断して廃車が落下し、その下敷きになった。	372	4	1～ 9
2000	1	22 ～ 23	橋の上で事故車両の撤去作業を終え道路上の反射板を片付けていたときに、後方より走行してきた乗用車(携帯電話使用中)にひかれた。	231	17	1～ 9
		11	廃車置場において、積載型小型移動式クレーンを使用してトラックの荷台			1～

2000	8	～ 12	に荷を積み込み、荷台上で自立していた荷の吊具を外したところ、荷が倒れて激突された。	612	5	9
2000	10	13 ～ 14	吊り上げ荷重25tのホイールクレーンの左後方にあるマフラーの排気管を交換する作業をクレーンオペレーターと2人で行うため、クレーンオペレーターが作業しやすいようにクレーンの左後輪を動かしたところ、想定していたタイヤの向きとは逆に動いたため、車体とタイヤとの間に挟まれた。	212	7	1～ 9
2000	9	10 ～ 11	工場内に設置されている一柱リフトの点検のため、ラチェットレンチでオイルタンクの蓋(重さ：約1kg)を開けたところ、オイルタンク内のエアが加圧された状態であったため圧縮空気とオイルが一気に噴き出し、工具や蓋がはじけ飛んで頭部を直撃した。	364	4	10 ～ 29
2001	1	15 ～ 16	港から港に同僚と2名で機材センターの台船を曳航し、その後、近くに係留していた別の台船の除雪作業を行うため曳航船へ道具を取りに行ったときに誤って海中に転落した。	239	10	～ 29
2001	3	9 ～ 10	乗用車の車検整備のため、乗用車を専用の台車に載せて自動車整備ラインに設けられたレールの上を人力で移動させていたところ、台車から滑り落ちた乗用車が落下し、下敷きになった。	231	4	10 ～ 29
2001	4	18 ～ 19	自動車整備工場において、フロントバンパーの取り替え作業を終了したミキサー車にナンバープレートを取る付ける作業を行っていたときに、他の者がミキサー車を移動させたためひかれた。	221	7	10 ～ 29
2001	6	13 ～ 14	屋外の廃油保管場所付近で廃油(エンジンオイル等)の入っていた空ドラム缶を処分するため天板をアセチレンガスで溶断していたところ、ドラム缶内に残留していたガスに引火し、爆発した。	331	14	10 ～ 29
2001	6	9 ～ 10	故障車(3t貨物)を移動させようとしていた作業車両等(故障車1台、作業車2台)に、後方から走行してきた10tトラックが追突した。	221	17	1～ 9
2002	5	18 ～	2tトラックのオートマチックトランスミッション交換のため、油圧式リフトを使用してトラックを1m50cm持ち上げ前作業となるプロペラシャフト	221	6	10 ～

		19	の取り外しを行ったところ、トラックが後方に動き出したためジャッキから滑り落ちてトラック前部に頭部を打たれた。			29
2002	6	15 ～ 16	自動車修理工場内で、3 t 積載型トラッククレーンのトラック後部ランプの点滅点検作業を行っていたところ、バックランプが点灯しないので同僚にエンジンを掛けるように指示したときに、トラックが突然バックしてトラックと壁との間に挟まれた。	212	7	30 ～ 49
2002	10	10 ～ 11	自動車整備工場において、部品交換のためジャッキを使用して乗用車の前部を約60 c m上昇させ車の下に入って作業をしていたところ、ジャッキが車から外れたため上半身が車の下敷きとなった。	231	7	1～ 9
2002	12	11 ～ 12	タンクローリーのタイヤに空気を充填するときに、タイヤホールを固定せずに作業を行ったところ、ホイールが1 c m歪んでいたため圧縮空気が漏れ出しその反動でタイヤホイールが飛んで作業者に激突した。	529	4	10 ～ 29
2002	12	9 ～ 10	廃車するトレーラーの部品（タイヤ、ミッション、燃料タンク等）を2m後方のトレーラーに移すため、前方のトレーラーのサイドブレーキをゆるめてタイヤに歯止めをしてジャッキアップしたところ、トレーラーが歯止めを乗り越えて後方へ動き出したので、止めようとして前方と後方のトレーラーの間に挟まれた。	221	7	1～ 9
2003	5	17 ～ 18	軽自動車で行中、信号機のない市道交差点で右方向から来た乗用車と出会い頭に衝突した。	231	17	1～ 9
2003	5	11 ～ 12	フォークリフト(最大荷重2.5t)のフォークを高さ2.35mの高さに上昇させたまま走行し、左に曲がろうとしたときに横転し、運転席右上部のヘッドガードと地面との間に頭部をはさまれた。	222	7	1～ 9
2003	9	11 ～ 12	マイクロバス(車両質量3.2t)の前輪を空気圧式ジャッキ（エアールフト）で持ち上げて車体下の整備作業中に、突然リフトが降下しマイクロバスの下敷きになった。	219	4	1～ 9
		15	13tトラックの屋根の雨漏り補修のため、屋根上（高さ3.6m）で作業をし			10

2003	10	～ 16	ていて墜落した。	221	1	～ 29
2003	10	13 ～ 14	中2階に置いてあるタイヤの在庫確認を行って屋内用リフト（最大積載荷重200kg）で1階に降りようとしたときに、下降と上昇のスイッチを間違えて押したため、搬器が上昇したため中2階の梁と搬器との間に頭をはさまれた。	214	7	1～ 9
2003	12	2 ～ 3	故障車を荷台に積んで固定しているときに、後方より脇見運転の4tトラックが追突してきたため、積み込んだ故障車と4tトラックの間にはさまれた。	221	17	30 ～ 49
2004	11	9 ～ 10	バッテリー式フォークリフト（重量2.6t）を他の倉庫に移動させるため、車両積載形トラッククレーン（4t車、能力2.93t）を使用し、トラックの荷台に積み込む作業中、フォークリフトをつり上げ、荷台上に移動させようとしたところ、玉掛けしたワイヤロープが切断し、近くにいた作業者が落下したフォークリフトの下敷きとなった。	372	4	1～ 9
2004	11	10 ～ 11	乗用車の車検整備作業中、交換が必要な部品（排気温センサー）を同一メーカーの廃車から取り外そうと、廃車の前部側方に油圧ジャッキをあてて約50cmリフトアップさせた後、車両下部に潜って取り外し作業を行っていたところ、突然車が後方にずれ、同時にジャッキが倒れたため、車の下敷きとなった。	231	7	1～ 9
2004	6	11 ～ 12	貨物自家用車（車両重量1.76t）をエアーフロアジャッキ（耐圧荷重1.8t）でジャッキアップし、車両下部に潜り込んでのエンジンオイル交換作業中、車両が落下し下敷きとなった。	379	7	1～ 9
2004	12	15 ～ 16	携帯用丸のこ盤により、アルミ縞板を切断しようとしやがみこんだ際、誤って切創した。	131	8	1～ 9
2004	4	14 ～	自動車整備工場内で車両の入れ替え作業を行っていたところ、被災者の乗った軽乗用車が急発進し、工場敷地内の駐車場および駐車場が面した国道を横切り、国道の反対側にある住宅のブロック塀と建物の外壁に衝突し	231	17	1～ 9

		15	た。			
2004	12	11 ～ 12	車両修理のため2 t ダンプトラックの下に入り仰向けの姿勢でドライブシャフトを外していたところ、車両が自然に下り坂を下がったため右後輪でひかれた。	221	7	30 ～ 49
2004	3	14 ～ 15	工具を買いに行くため、青信号になった交差点に自転車で進入したところ、左折してきた大型トラックに巻き込まれた。	221	17	1～ 9
2004	2	10 ～ 11	10 t トラックの修理作業中、車両後部のフデ塗りを行っている時に、他の作業者がそのトラックを移動する準備として、ブレーキ用のコンプレッサーにエアを溜めるためエンジンをかけたところ、ギアがバックに入っており、10 t トラックがバックして被災者が金属製の棚との間に挟まれた。	221	7	1～ 9
2004	5	14 ～ 15	整備工場のピットにおいて、バスの下廻りに係るなんらかの作業を行っていたところ、当該バスが動き出したため、バスの前にまわり停止させようとした際、バスと給油所柱に挟まれた。	231	7	1～ 9
2005	4	20 ～ 21	自動車を運転中、ゆるい右カーブで蛇行した。	231	17	1～ 9
2005	8	11 ～ 12	事業場構内の駐車場で方向転換中、運転席のドアを開けて、上半身を乗り出して後退させようとしたところ、工場脇の鉄柱と車体との間に挟まれた。	231	3	10 ～ 29
2005	4	15 ～ 16	事業場敷地内にあった立木の枝切り作業を行っていたところ、バランスを崩して3.2m墜落した。	712	1	10 ～ 29
2005	6	14 ～	バスの修理作業のため、バス床下のシャーシに油圧式ジャッキ及びうまを利用してバスを持ち上げ、修理終了後に、うまを取り外すために、一旦、ジャッキアップした際、滑り止めとして使用していた木材が割れ、うまが	231	7	1～

		15	シャーシから外れたためにバスが沈み、バスの後部付近にいた被災者が挟まれた。			9
2005	9	14 ～ 15	車両置場において、廃車にした軽自動車からドライブシャフトを取り外す作業において、ジャッキが外れ当該車両の下敷きとなった。	231	6	1～ 9
2005	12	11 ～ 12	公道において、故障した乗用車を運搬するためにキャリアカーに載せる作業を行っていたところ、キャリアカーと故障車との間に挟まれた。	239	7	10 ～ 29
2005	8	17 ～ 18	道路上で故障したトラックを修理点検するため、移動式クレーンでトラック車体後部をつり上げた状態で車体に下に入って作業していたところ、つり上げに使用していた繊維ベルトのアイが切断し、被災者に車体が落下した。	372	4	1～ 9
2005	3	14 ～ 15	ダンプトラックの荷台を上昇させ、整備作業中、荷台が下降し、荷台とシャーシとの間に挟まれた。	221	7	1～ 9
2006	1	13 ～ 14	被災者は、フォークリフトで廃車を持ち上げ、廃車のガソリンタンクに残存していたガソリンを抜く作業を行っていた時に、何らかの原因で身体にかぶったガソリンに引火し、被災した。病院で治療を受けていたが、死亡した。	512	16	1～ 9
2006	2	13 ～ 14	工場内において、トラック（最大積載荷重3.35t）の右側のアオリを外側に開いて溶接してしまったことから、内側に戻すため、アオリの上端と反対側の荷台の角に穴の開いた鉄板の端材を溶接し、レバブロック（荷締機）を掛けた。脚立の5段目（高さ1.4m）にのぼり、レバブロックの締めつけ作業を行っていたところ、荷台の角の溶接部が破断し、その反動で後ろ向きに転落した。	371	1	1～ 9
2006	8	19	工場壁面の換気扇のシャッターを閉じるため、ピット（最大深さ185cm、幅122cm）の上に載ったコンパネ（厚さ3cm）の上を通り渡ろ	419	9	10 ～

		20	うとした時、コンパネが中央部より割れ、被災者とともに落下した。			29
2007	11	13 ～ 14	被災者は、修理の依頼を受けたフォークリフトを事業場に搬送するため、フォークリフトを運転し、市道を走行していたところ、運転操作を誤り、蛇行を繰り返した後フォークリフトが横転し、運転席から投げ出され、フォークリフトの下敷きとなった。	222	17	1～ 9
2007	8	16 ～ 17	トラック重機ラインにおいて、同僚が単独でつり上げ荷重2.8tの天井クレーンを使用して貨物自動車の荷台をつり上げて同車両を解体していたところ、つりチェーンのフックから荷台がはずれて降下し、貨物自動車荷台の下をのぞきこんだ被災者が荷台と車台の間にはさまれた。	211	4	100 ～ 299
2007	4	13 ～ 14	被災者は同僚と2名で3tトラックの荷台を昇降させるパワーアームの修理作業をしていた。修理にあたり、パワーアームの元に取り付けてある安全ピンを取り外すために荷台下部で作業中、荷台が落下し被災者を直撃した。	221	7	1～ 9
2007	10	16 ～ 17	プレハブ建築物を解体作業中、高所作業車の作業床に載せたパレット上（地上高さ2.8m）で作業していた作業者が、撤去したトラス梁を地上に降ろそうとした際、墜落した。	146	1	10 ～ 29
2007	12	9 ～ 10	橋の欄干に衝突して止まっていた事故車両（トラック）を移動する作業において、被災者は事故車の状況を確認しようと用水路脇のフェンス（高さ1.1m）を乗り越えて車両に近づいた際、道路から約2m下の用水路（水深約2.3m、幅14.3m）に転落した。	713	10	10 ～ 29
2007	8	18 ～ 19	ブレーキが壊れていた農民車（農作業用トラック）をカーキャリア（車両運搬車）に積む際に、被災者がその農民車を運転してカーキャリアの荷台に載せたところ、そのまま前進し、カーキャリアの2段目の荷台と被災者の体が激突し、農民車のあおりの部分にはさまれた。	221	3	1～ 9
2007	6	10 ～ 11	主要地方道の交差点において、被災者の運転するライトバンと3人の作業者を乗せた乗用車とが出合い頭に衝突した。災害発生場所は、信号のない交差点であった。	231	17	1～ 9

2008	11	10 ～ 11	被災者は、除雪車に改造するために荷台を傾斜させていた7tダンプトラックの後ろで、同車の前部バンパー部品の製作を行っていたところ、荷台の最後部に積んであった2tのコンクリートブロック（除雪車のスノープラウとのバランスを取るためのおもり）が落下し、被災者が下敷きとなった。	221	4	1～ 9
2008	8	18 ～ 19	高さ約1mの可搬式作業台で、トラクター（トレーラーヘッド）の塗装仕上げ作業を行っていたところ、床に転落して負傷し、死亡した。	371	1	1～ 9
2008	1	10 ～ 11	トラクター・ショベルの現場出張修理を事業場の駐車場で行っていた時、トラクター・ショベルの下にもぐって作業をしていた被災者が、突然動き出したトラクター・ショベルの下敷きになった。	141	7	1～ 9
2008	2	15 ～ 16	事業場の板金及び塗装を行う工場内でマイクロバスの板金塗装作業が終了したため、バスに掛け渡してあったビニール製の養生シートを取り外すためバスの上（高さ約3.2m）に昇り、養生シートを取り外した。その後、バス後部に掛け渡していたはしごから降りるときに、はしごが滑動してはしごとともに墜落した。	371	1	1～ 9
2008	10	15 ～ 16	作業員2名にてトラクター・ショベルの修理中、バケットを上げて既設の擁壁上にバケットの左端部分を載せ、被災者が左右のブームを繋ぐ支柱とボンネットの間に立ち、ボンネット内の電気系統の機械（メインコントロールバルブ）の取り外し等を行っていたところ、擁壁からバケットが落ち、ブームが降下して被災者が左右のブームを繋ぐ支柱とボンネットにはさまれた。	141	7	10 ～ 29
2008	7	11 ～ 12	トラック・バス整備工場において、被災者が大型観光バスの洗車をしているところ、その背後からタンクローリーが前進してきて当該大型観光バスとタンクローリーの間にはさまれて死亡した。	221	7	10 ～ 29
2008	2	13 ～	整備工場内でダンプ用の油圧シリンダーの漏れを修理するために、トラックの荷台を上昇させてホースを取り外す作業をしていた。整備工場内では高さに制限があったためトラックの荷台が十分に上げられないので、荷台の降下防止用に別の支柱を用い作業していた。その際、セットした当該支	221	7	10 ～

		14	柱が外れてトラックの後輪のところにいた被災者は、トラックのサイドバンパーと荷台についているリアフェンダーにはさまれた。			29
2008	2	10 ～ 11	整備工場で、被災者が自社のトラックのクラッチ板を取り替えるために深さ1.3mのピットに入って架台に載せた油圧ジャッキで当該トラックのトランスミッションを下ろしていた。その際、架台、油圧ジャッキが倒れたため、載っていたトランスミッション（約300kg）が落下して下敷きとなって死亡した。	363	5	10 ～ 29
2009	2	13 ～ 14	国道の信号機のない十字路交差点で、被災者の運転していた軽自動車とワゴン車が出合い頭に衝突した。	231	17	1～ 9
2009	11	16 ～ 17	バスの点検・整備・修理のため、1人でバス左後輪部分とバスの車体の間に身体を入れ修理作業を行っていたところ、はさまれた。	231	7	30 ～ 49
2009	9	10 ～ 11	自動車整備工場である当該事業場において、乗用車をリフター（自動車を持ち上げる装置）にて地上168.5cmの高さまでリフトアップし、自動車下回りの整備を行っていた被災者が、リフターから車の右前部が傾く形で落下した車の下敷きとなった。	231	4	1～ 9
2009	5	13 ～ 14	被災者は、大型トラックの後輪エアサスペンションのエアスプリングを交換するため、リモコンでエアサスペンションにエアを送り、タイヤと荷台との間隔を広げた後、運転席側の後部タイヤとフェンダーとの隙間に上半身を入れ、エアホースのネジを工具でゆるめたところ、エアホースからエアが抜け出し、荷台が下がりタイヤとフェンダーとの隙間にはさまれた。	221	7	1～ 9
2010	1	11 ～ 12	自動車整備工場の作業ピット内でタンクローリーの修理作業中、ドライブシャフトを取り外したのでサイドブレーキが解除され、逸走防止措置をしておらず、タンクローリーが後進し、前輪がピットに落下して作業中の労働者に激突し、上半身がピットと車体との間に挟まれた。	221	6	10 ～ 29

2010	3	15 ～ 16	被災者は、10 t ダンプの車検前整備のため、車両の前後から2台のジャッキでジャッキアップした後、車両前部をリジットラック（ウマ）で2か所支えて、前部のジャッキを抜き、前部のリジットラック、後部のジャッキの計3点で支えた状態の車両の下に入って整備作業中、前部のリジットラックが2ヶ所とも外れて車体が落下し、当該車両下で作業していた被災者が下敷きになったもの。	379	7	1～ 9
2010	3	14 ～ 15	被災者は、ユーザーから預かったトラック（最大積載荷重2 t、積載型トラッククレーン）の車検を受けるため、予備車検場へ持込み予備検査を行っていた。コーナーランプの電球を取替えていた際、停車中の積載型トラッククレーンが後退したため、両手で止めようとして積載型トラッククレーンの後部と建物との間に挟まれ、死亡した。逸走防止措置を講じていなかった。	221	7	1～ 9
2010	8	15 ～ 16	サイレントパイラー（油圧式杭圧入機）のオーバーホールを終え、その組立時、オーガ（駆動部）にケーシングを接続する作業にて、オーガにケーシング内部のスクリューを接続し、次に抜け止め用接続ピンを打ち込む段階で、被災者はピン孔の位置を調整しようとケーシングの近傍に立ち、手持ちのリモコンを操作してスクリューを微回転させようとしたが、リモコン操作を誤り、正常回転ボタンを押してしまい、ケーシングとスクリューが治具で固定されていたためケーシングが転動し、被災者が轢かれた。	149	7	30 ～ 49
2010	8	12 ～ 13	自動車整備工場塗装作業前処理のマスキング作業中、熱中症を発症して意識が朦朧とし、立ち上がれなくなったもの。救急車で病院に搬送され、入院加療中であつたが、約20日後に死亡したもの。	715	11	10 ～ 29
2010	9	9 ～ 10	自動車保険の研修会に出席するため走行中、センターラインをオーバーし対向車と正面衝突した。	231	17	1～ 9
		11	事業場構内において、空荷のトレーラーとトレーラーの間（約3.3 m）にトラック（最大積載量13.9 t）をバックで駐車させるため、被災者はトラック後方で誘導を行っていたところ、切り返しのために前進したト			30

2010	9	～ 12	トラックの荷台部分とトレーラーの間に挟まれ死亡したもの。トラックに積まれていた廃材が荷台からはみ出ていたため、当該廃材を荷台上に戻そうとしてトラックに接近したらしい。	221	7	～ 49
2010	10	15 ～ 16	整備士から10tダンプトラックの左後方のテールランプとバックランプの修理をしてほしいと頼まれたことから、被災者がテールランプの裏側の隙間に体を入れて配線の状態を確認していたところ、バックランプに通電させようと変速ギヤをバックに入れた状態で整備士がトラックのエンジンキーを回したため、トラックが急に後退し、被災者はトラックの左後輪に轢かれて被災したもの。	221	7	1～ 9
2010	10	16 ～ 17	積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）の荷台に積んであった荷（廃車するトラックの運転室等）を、被災者が当該クレーンを操作し降ろす作業をしていたところ、当該クレーンが転倒し、被災者がその下敷きとなった。アウトリガを張り出しておらず、定格荷重を超えていたとみられる。	212	6	1～ 9
2011	5	19 ～ 20	10tトラックの荷台左側下部に燃料タンクを取り付ける作業中に発生。被災者はフォーク先端に燃料タンクを載せたフォークリフトのフォークの間でバックレストの前に入り、燃料タンク取付場所に位置を合わせるため、フォークリフトの運転手に合図をしていた被災者がバックレストとトラック荷台の間に頭を挟まれ死亡した。	222	7	1～ 9
2011	3	18 ～ 19	市内の店舗へ車両を輸送するため、車両搬送車で片側3車線道路の追い越し車線を走行中、前方にガス欠で放置されていた中型貨物自動車（4t、ハザードランプ点滅のみ）を避けきれず追突。	221	17	10 ～ 29
2012	2	10 ～ 11	事業場へ戻る際、高速道路を被災者の運転する積載車のほか一般車両数台が連なって走行中、当該車両複数台が絡む衝突事故が発生し車線をふさぐ形で停車したため、最後尾を走行していた被災者は積載車から降りて事故状況を確認していたところ、後続車両が更に追突し、押し出された積載車と前方車との間に挟まれた。	719	17	1～ 9

2012	2	16 ～ 17	2 tトラックの下でギヤの整備中、回転していたプロペラシャフトに作業着が引っ掛かり左腕が巻き込まれ、作業着で頸部が圧迫され窒息死した。	221	7	1～ 9
2012	6	11 ～ 12	被災者は、出勤後社有車で出掛けたところ、橋脚に激突し死亡した。	231	17	1～ 9
2012	11	15 ～ 16	被災者は、修理が終わり客先へ回送する車両を探して整備工場敷地内を歩いていたところ、別の労働者が修理のためバックで移動させていたトラックに轢かれた。	221	7	30 ～ 49
2013	6	10 ～ 11	被災者は、タンクローリー車のタンク内部にある隔壁の点検・補修作業を行っていた。タンク内は隔壁で4室に分けられており、運転席側から順に1室～4室とされ、その内3室から4室へ液漏れすることから、3室に圧縮空気を流し込んで圧力をかけ、被災者が4室内で間の隔壁からの液漏れ確認を行っていたところ、3室側へ反り膨らんだ形状の隔壁が一気に4室側へ膨らみ、膨らんだ隔壁が被災者の頭部に激突し死亡した。	221	15	10 ～ 29
2013	2	12 ～ 13	フォークリフトの修理のため、4 tの油圧ジャッキを使用して車体の後方を持ち上げ、車体の下に頭部を入れて行っていたところ、油圧ジャッキが外れ、降下した車体と地面に頭部をはさまれた。左後輪の下に安全ブロックとしてまくら木を置いていたが、地面から車体までの高さは最大箇所ですら16 cmであった。	222	7	1～ 9
2013	11	18 ～ 19	大型タイヤ（重量約300 kg）をクレーンを使用して移動させた際、何らかの原因で玉掛けワイヤーが外れ、当該タイヤの下敷きになった。	372	7	1～ 9
2013	12	18 ～ 19	被災者は、軽乗用車を運転し集金先から事業場に戻る途中、市道交差点で、普通乗用車と出会い頭に衝突し、死亡した。尚、交差点における位置関係は、被災者側が赤の点滅信号の車道を、相手側が黄色の点滅信号の車道を、それぞれ走行していた。	231	17	10 ～ 29
		16				10

2013	8	～ 17	自動車整備工場（塗装作業場）で爆発事故が発生し、塗装作業員が全身火傷を負い、死亡した。	512	14	～ 29
2014	10	～ 15	タンクローリーのタンク内にて、アルミ製の仕切板をアーク溶接作業中、ガソリンの残存ガスに引火し、タンク内で爆発が発生し、巻き込まれた。	512	14	～ 50 ～ 99
2014	7	～ 11	自動車修理工場内にて、自動車の前部をジャッキアップし、ウマジャッキをかませ、自動車下部にもぐり、修理作業をしていたところ、ウマジャッキが外れ、修理作業をしていた被災者が自動車の下敷きになった。	379	5	1～ 9
2014	7	～ 16	自動車整備工場にて、トラックのオイル交換及びオイルエレメント交換中、交換したオイルエレメントにオイルを充填するため、同僚がエンジンを始動させたところ、トラックが走行し、出入口門扉部に激突。被災者は門扉と前輪の間に挟まれ、死亡した。	221	6	1～ 9
2014	6	～ 10	整備工場内にてタクシーの修理作業中、車両をジャッキアップし、寝板を使い、車両下部に入った際、ジャッキが外れ、被災者が車両の下敷きになっているところを同僚に発見された。	231	7	1～ 9
2014	3	～ 22	飼料運搬車の荷台上にて、飼料用スクリーコンベアを分解し、点検作業を行っていた際、バランスを崩し、約3.9m下の地面に墜落した。	221	1	～ 10 ～ 29
2014	2	～ 8	敷地内に停車しているダンプトラックのサイドブレーキが凍結し、サイドブレーキが下がらない状態であったため、荷台を上げ被災者と同僚作業員の2名により凍結箇所の水をかけ溶かしていた。同僚作業員が運転席のステップの上でサイドブレーキの確認をしていたところ、荷台が突然下がり、車体の上にいる被災者がフレームと荷台に挟まれ死亡した。	221	7	～ 10 ～ 29
2014	2	～ 11	被災者は、ロードサービス（パンク修理）の依頼を受け積載車で高速道路上の現場に向い、救援対象車の後方路肩に停車した。車から降り、積載車の前で救援対象車のドライバーと打ち合わせを行っていたところ、後方からトレーラーが積載車に追突し、その衝撃で押し出された積載車に被災者	221	17	～ 10 ～ 29

			と救援対象車のドライバーの2名が下敷きになって死亡した。			
2015	11	13 ～ 14	キャリアカーのエンジンの整備を行うためにデッキ（荷台）の一部を動かしていたが、エンジンの整備が終了し前側上段デッキを元に戻す必要があった。被災者が前側上段デッキの落下防止用に挿した後方ロック部の安全ピンを抜かずに水平に戻す作業を行ったため、前側上段デッキが水平にならず、後方ロック部を被災者が外したことから前側上段デッキの後方が跳ね上がり、後側上段デッキとの間に被災者の頭部が挟まれた。	221	7	30 ～ 49
2015	7	9 ～ 10	客先よりトラクター（農作業用）が、道路のU字溝にはまってしまったとの連絡を受け、被災者と同僚がU字溝からトラクターを出して、被災者がすぐ近くの客先の家までトラクターを運転していこうとしたところ、ブレーキが故障し下り坂であったためT字路を曲がりきれずトラクターが横転、被災者がトラクター後輪と道路に頭を挟まれた。	169	17	1～ 9
2015	7	13 ～ 14	工場敷地内において、被災者は、車両積載形トラッククレーンの修理作業のため、助手席側前輪付近の車体底部に潜り込み、取付けられたエンジンスターターの不具合を確認していた際に、同僚にエンジンキーを回すよう指示したところ、トラックが後進し、トラックの前輪に轢かれたもの。	212	7	1～ 9
2016	11	15 ～ 16	被災者は、凍結防止剤散布車の修理点検を行っていたところ、車両後部にある凍結防止剤を投入するホッパー内下部にあるシャフト及びスクリュウコンベアに右半身を巻き込まれた状態で発見された。	221	7	30 ～ 49
2016	10	15 ～ 16	自動車整備士である被災者は、同社の整備工場内において、最大積載量10.5トンのトラックの左後輪部車軸に設置されているディスクローター（ブレーキ部品）を手持ち式グラインダーで研磨する作業を行っていたところ、当該トラックの車底に設置された回転中のプロペラシャフト（エンジンの動力を車軸に伝える部品）に巻き込まれ死亡した。	221	7	10 ～ 29
2016	10	17 ～	野外支援車（以下、トラック）修理作業において、トランスミッションを取り外すためにトラックの前方を工場据付けのジャッキ、後方を可搬式ジャッキにて持ち上げ、トランスミッションを外してトラック脇に置き、トラックを下ろそうとしたところ、何らかの理由により後方の可搬式	361	7	30 ～

		18	ジャッキが下りたため、リアバンパーと床面との間にいた被災者が挟まれ、胸部圧迫等により死亡した。			49
2017	10	16 ～ 17	洗車場でロータリー除雪車を清掃中、回転していたオーガにホースが絡まった影響で被災者もオーガに巻きこまれた。	149	7	1～ 9
2017	8	12 ～ 13	10 t ダンプの車検整備作業で、ヘッドランプ、ウインカー等のライトの点灯を確認するため、被災者が目視確認し、もう1名が運転席でライト点灯操作を行っていた。バックライトの確認をするため、被災者が当該ダンプの後方に立ち、もう1名がバックライトを点灯させるためギアをバックに入れた瞬間、当該ダンプが後方へ急発進し、被災者は当該ダンプの後方約3 mの箇所に停車していた別の10 t ダンプとの間に頭部を挟まれた。	221	7	10 ～ 29
2017	3	14 ～ 15	事業場内において、3か月点検を行うため、トラックの前輪部をジャッキアップし、後輪側のエアサスペンションを作動させ、車体を浮かす事により、トラックと床の隙間を広げ、被災者がトラック下部に潜り、グリスアップ作業を行っていた。別の労働者がライト等の点灯点検を行うため、トラックの電源を入れたところ、エアサスペンションが降下部に作動し、エアサスペンションのスタビライザー部と床面に挟まれ死亡した。	221	7	1～ 9
2017	1	18 ～ 19	被災者は、工場内において点検整備後のトラックの検査作業中、トラックをブレーキテスターに載せ制動力を確認したところ、左前輪ブレーキに不具合があったため、当該テスターを稼働させたまま、トラックの左前方より車体下部に潜り込んだところ、トラック左前輪とテスターの前側ローラーとの間に巻き込まれた。当該テスターは、前後に2本のローラーが備わっており、後側のみモーターと連結された構造となっている。	169	7	30 ～ 49
2017	1	18 ～ 19	自動車整備場内において、積載形トラッククレーンを載せた四柱式リフト（作業者の立ち作業用の車両を上昇させる装置）が、高さ約1.6 mの位置で故障してロックがかかったため、ロック箇所を調べていたところ、当該リフトの前方が下がり、リフト上の積載形トラッククレーンが動き出し	214	6	1～ 9

			て被災者に激突し、壁にはさまれた。			
2018	7	10 ～ 11	被災者は、荷台が上がらなくなった8. 3トン深ダンプの修理のため、堆肥を積んだまま、荷台を上下に稼働させる油圧装置に給油する作業をしていたところ、突然荷台が上がり、傾れ落ちた堆肥に埋もれ、窒息死したものの。被災者発見当時、運転席内の荷台の操作レバーは荷台を上げる状態にされていた。荷台の後アオリは2個のピンロックが掛けられていたにもかかわらず開いており、堆肥はその隙間から傾れ落ちていた。	221	5	10 ～ 29
2018	5	14 ～ 15	バッテリー式フォークリフトのマスト部の修理作業中、身体がティルトレバーに触れ、後傾したマストとヘッドガードの間に頭部をはさまれ、死亡した。	222	7	10 ～ 29
2018	5	10 ～ 11	工場の塗装室内で縊死しているところを発見されたもの。	921	90	1～ 9
2018	3	16 ～ 17	終業時間が近づいたため、事務所から離れた場所にある作業場所（通称：駐車場）にて中古車販売用の10tトラックのホイール磨き作業に従事している労働者を迎えに行ったところ、作業場所に居なかったことから、駐車場内を探していたら、駐車場の外側を流れる用水路（幅80cm、深さ1m、水深9cm）の中でうつ伏せになって死亡している労働者を見つけたもの。	999	10	30 ～ 49
2018	2	16 ～ 17	給油車（航空機に給油するためのポンプを備えたタンクローリー）の整備点検作業に際し、当該車両装備のポンプの能力を点検するため、給油ホースをタンク上部のマンホールから挿入し、灯油とみられる液体を循環させていたところ、突然マンホール付近から火災が発生し、タンク上部でホースを保持していた2名及び車両後部で機器の操作と点検を行っていた2名が被災したものの。	512	16	30 ～ 49
2018	2	12 ～ 13	被災者は、自動車の整備を行うため、2柱式のカーリフトを使用し1.8mの高さまで持ち上げ、車体の下に入り作業を行っていたが、車体を支えていたアームが外れ、車体が落下しその下敷きになったもの。	214	4	1～ 9

2018	1	10 ～ 11	1 2. 2 t のあおりのない平ボディトラックの荷台からロータリー除雪車を荷卸しする作業中、同僚労働者が除雪車を運転し、被災者の誘導によって前進で荷台後方端部まで移動させ、ブレーキを踏んで停車し、その後被災者が荷台から地上への道板を設置していたところ、何らかの原因で除雪車が前方に動いてそのまま道板上を滑り落ちるような状況になり、除雪車前方で作業中の被災者が除雪車の除雪装置と地面との間に挟まれた。	149	6	30 ～ 49
2019	9	8 ～ 10	自走式破碎機の修理を行うため、破碎する木材を入れる投入口を油圧で上に持ち上げた状態で、同機械に上がって破碎機部分の点検を行っていたところ、投入口が下がり、投入口と破碎機本体の間に頭部をはさまれ、死亡した。	162	7	1～ 9
2019	6	10 ～ 12	自動車販売店の店舗前の路上で、自動車の積込み作業を行っている労働者が、路上を走行していた自動車に撥ねられて被災したものの。	231	17	10 ～ 29
2019	3	18 ～ 20	塵芥車の後方カメラ交換作業中、車体下のフレームに配線を取り付けようとしたところ、フレーム脇にあるエンジンから油圧発生器へ繋がる動力取り出し用シャフトに上半身の作業服が巻き込まれ窒息。	221	7	10 ～ 29
2019	1	14 ～ 16	被災者は、4 トントラックのエンジンの整備のため、トラックのキャビンを開け整備していたところ、当該キャビンが下がり、はさまれた。病院へ搬送後死亡した。	221	7	1～ 9
2020	10	12 ～ 14	クラッチが故障したトラックをレッカー車で移動させるため、被災者がトラックの前輪の下に角材を挟み込んでトラック前部を浮かせ、トラック下部にレッカー車のけん引装置を固定しようとしたところ、当該トラックが動き出し、トラック前部とレッカー車後部に頭部を挟まれ、死亡したものの。	221	7	30 ～ 49
2020	9	8 ～ 10	集積されていた使用済み空きドラム缶を金属廃棄物入れに加工するため、アセチレンガスを用いて、ガス溶断を行おうとしたところ、密閉された缶内に充満していた可燃性気体に引火し、当該ドラム缶が爆発し宙空に飛びあがり、その際に被災者の顔面に激突したものの。	611	14	1～ 9

2020	5	16 ～ 18	車両整備工場のフロアリフトにて、廃油圧送ポンプのエアークックレバーを操作するため、フロアリフトを下降させて圧送ポンプのレバーを手で動かそうとしていたとき、フロアリフトが上昇してしまい、床とフロアリフトの間に頭部を挟まれたもの。	214	7	50 ～ 99
2020	4	14 ～ 16	ガソリンスタンド利用客の乗用車が暴走し、被災者に激突したもの。	231	6	10 ～ 29
2020	3	16 ～ 18	10 t 大型ダンプの荷台後部あおり下部の車体枠の修理中、あおり（重量：約120 kg）が頭部に激突した。（災害の現認者はおらず、被災者は右腕をあおりにはさまれた状態で発見された。）	221	6	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。